

セッション名：特別企画

セッションタイトル：日本人の心房細動の特徴と抗凝固療法のあり方：

**J-RHYTHM Registry** から学ぶこと

座長：新 博次（日本医科大学多摩永山病院循環器内科）

井上 博（富山大学大学院医学薬学研究部内科学第二）

心房細動では非弁膜症性であっても、心原性塞栓症のリスクが高まり、経口抗凝固薬による予防が重要であることは広く認識されつつある。心房細動の疫学、基礎疾患、塞栓症のリスク、抗凝固療法のあり方などについて、海外では数多くの研究が報告されてきた。わが国における心房細動の心原性塞栓症の診療については、これら海外からの報告に基づいて、実施されることが多かった。しかし、人種差、生活習慣など様々な要因によりわが国と欧米では、心房細動に関わる疫学、基礎疾患、塞栓症リスク、予防の在り方が大きく異なる可能性がある。昨今、新規の経口抗凝固薬がわが国でも海外とほぼ同時に発売が承認され、臨床現場で使用できるようになった。これらの新規薬剤の開発治験はわが国を含む多くの国の参加を得てなされたものであり、日本人にも欧米人と同様の効果が期待される。新規経口抗凝固薬導入前のわが国における心房細動の基礎疾患、塞栓症のリスク、抗凝固療法の実態を明らかにしておくことは重要であり、**J-RHYTHM Registry** が企画、実施された。その知見は数編の論文として既に報告され、主解析の結果も公表を待つ段階となっている。今回の特別企画では、この **J-RHYTHM Registry** の知見を元に、わが国における心房細動の心原性塞栓症の診療の在り方を、今一度振り返る機会としたい。